



■帯教研(特別支援教育部会) 今年度の研修と緑丘小学校の実践紹介

帯広市教育研究会特別支援教育部会 本田隆博(帯広市立緑丘小学校)

帯教研(特別支援教育部会) 今年度の研修

◎特別支援教育研究大会(夏) 令和6年7月30日(火) とかちプラザ

内容:講演会「個々の子どものニーズに合わせた授業づくり

～インクルーシブ教育システムの充実に向けて～」

講師:北海道教育大学釧路校 准教授 戸田竜也氏

◎特別支援教育研究大会(冬) 令和7年1月予定 会場未定

内容:講演会「演題未定」&実践交流

講師:北海道教育大学釧路校 准教授 戸田竜也氏

＜東・中央方面部会＞

○4月 顔合わせ

○6月 実践交流

(エリアファミリーごと)

○1月 講演会

(講師:カウンセラー

佐藤真梨子氏予定)

＜北・西方面部会＞

○4月 顔合わせ

○6月 講演会

(講師:長縄史子氏)

(演題:義務教育のその先)

○1月 実践報告&交流

(予定)

＜南方面部会＞

○4月 顔合わせ

○6月 実践交流

(テーマごと)

○1月 講演会

(講師:未定)

(演題:自立活動)

帯広市立緑丘小学校の実践紹介

◎本校には「特別支援部」という分掌組織があります。

ここでは、支援部が担当する研修についてご紹介いたします。

＜令和5年度 特別支援研修会＞

○講師 渡辺 順彦 氏

(音更町立下音更小学校教諭)

○演題「子どもたちの理解から始めよう」

～支援の基本と多様性の理解～

＜令和6年度 特別支援研修会＞

○講師 角田 隆二 氏

(帯広大谷短期大学専任講師)

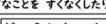
○演題 「未定」

☆新たな取組 ぐりさぼ・カフェ

「カフェにいるような、ゆったりとした時間の中で、おやつをつまみながら日頃の悩みなどを共有できたら」という思いから6月に開催しました。

今回のテーマは「愛着障害～こんな子クラスにいませんか」でした。

十勝特別支援教育振興協議会事務局次長 増子安以（中札内村立中札内小学校）

「わくわく」がきゅうは・・・ といふこととにがでなことのさが みんなより すこおきくて みんなと おなじやりかたが すこしくいしくなってもまづが 		 どいなか やりかたを みつけたりする ばしょ そのおとこに・・・	その子にあった やりかたで すくないにんずうで べんきょうすることがあるよ。 
わくわくのみんなで ちからをあわせて 	ぎょうじをつくって みんなでたのしむ べんきょうするよ。 	たのしいかつどうを するなかで きもちをつたえたり、 きもちを うまくきかえたり、 	ともだちとたすけあったりする 『とてもたしげなべんきょう』 をするよ。 ただ たのしく あそんでいただけじゃ ないだね。 

1回目の自立活動の時間にわくわく学級全児童に向けて、『わくわく学級は“自分に合ったやり方・ペースで勉強したり、自分のことをよく知って自分なりの方法を見つけたりする”場所だよ』という話をし、“前向きに自分と向き合うこと”や“楽しい活動も大切な学習のひとつであること”を子どもたち自身が、自信をもって捉えることができるようにしました。校内の先生たちにもこの取組を知らせ、在籍外の子どもたちにも必要に応じて同じ説明ができるようにしています。

7月の全体懇談で、学校全体の取組として大切にしたいこと～多様性を認め合うこと・わくわく学級のこと(①の内容)・子どもたち同士のつながりを育むこと～について説明をしました。また、保護者向け「中札内小サポートだより」を年間通して定期的に発行し、上記“大切にしたいこと”や、大きな行事での“合理的配慮”(感覚への配慮・いろいろな道具や参加の仕方等)、子ども理解にかかわる話題等をお知らせし、特別支援教育の理解啓発に努めています。

[illegible][illegible]

←「中札内小サポートだより」No.4 十月十一日発行
学習発表参観日について・自己肯定感を育むほめ方

十勝特別支援教育振興協議会事務局長 小武海博一（本別町立勇足小学校）

十勝の多くの町村においては、「本別町特別支援教育振興会」などの名称で特別支援教育にかかわる振興組織があり、児童生徒の交流事業や先生方の研修事業を行っています。本別町の場合、コロナ禍で中断を余儀なくされた数年の間に事業内容や組織について見直し、昨年度から徐々に事業を再開することができました。中でも、特別支援学級の「交流事業」は楽しみにしている子どもたちや先生方も多く、再開が切望されていたところです。事業再開後の第一弾として、町内の就労継続支援 B 型事業所「ほんべつつつじの園」の協力をいただき、園の利用者さんも参加して、「機織り」と「ボッチャ」の体験を通して交流を深めることができました。実は私は本別の勤務が二度目なのですが、今から 10 年以上前に当時の児童生徒としてこの事業に参加していた子どもたちが、今は大人になり、園の利用者として今の子どもたちの機織り体験のサポート役やボッチャの相手チーム役を務めてくれたのです。大人になっても変わらぬ笑顔と人なつこさ、屈託のなさ、そして自立を目指して地域の中で充実した日常生活を送る姿に感激するとともに当時が偲ばれ、たいへん感慨深いものがありました。本別町は長く「福祉でまちづくり」の理想を掲げ、障害者福祉にも力を入れてきたその証左でもあるとも言えます。支援に携わる我々の責務として、地域との連携を大切に当たり前にしていく必要を再確認した次第です。



- ①管内の特別支援学校それぞれの専門性や関係機関の情報を共有すること。
- ②教育機関・福祉・医療・労働の様々な機関との連携を図り、特別支援教育の理解・啓発を図ること。
- ③定期的な研修を通して、特別支援教育の力量向上を図ること。

※一人で悩んだり学校だけで抱えたりせずに、いつでもお気軽にご相談ください♪



詳細は北海道帯広養護学校 HP を
ご覧ください